

国際交流協会会報

Vol. 5

2009.10



協会章

「北」をモチーフに、人と人のコミュニケーションを表現しました。

地域での交流を通じて相互理解を深め、お互いを尊重することで

よりよいまちづくりをめざすイメージです。

新築移転のJICA中部で ボランティア研修会



7月21日、協会のボランティアなど24人が、名古屋市中村区の「ささしまライブ」地区のJICA中部（独立行政法人国際協力機構中部国際センター）で国際理解と国際協力についての研修会を行いました。

JICAは、政府開発援助（ODA）の実施機関で、開発途上国への協力事業を実施しており、全世界に約100か所の在外事務所のほか、日本国内にも本部と17の国内機関を持っています。会場のJICA中部は、中部4県（愛知・岐阜・三重・静岡）の総合窓口として、開発途上国のさまざまな問題を解決するために中部地域が持つ知識や技術を生かしたり、地域の人々が行う国際協力やJICA事業への理解と参加を促進しながら、技術研修員の受け入れ、青年研修、ボランティア派遣、草の根技術協力、開発協力・国際理解教育支援、国際協力・国際交流イベントに関する事業を実施しています。

研修は本協会の希望にあわせ、午前中はJICA事業の概要説明と国際協力についての説明を受けました。昼食では、東アフリカのウガンダの学校給食のメニュー「白

いんげん豆のトマト煮」とライスをいただきました。午後は、2組に分かれて青年海外協力隊員の経験談を聞き、施設を見学しました。1階にある「なごや地球ひろば」は6月1日にオープンしたばかりです。「体験ゾーン」では、今世界が抱えている貧困、教育、保健医療、環境の問題を数字で学べるよう工夫がしてありました。また、フェアトレードショップがあり、買い物を通じて身近な国際貢献ができます。エスニック料理が味わえるカフェもありました。2階には、セミナールームやパネルコーナー、情報コーナーがあります。3階からは主に宿泊施設で、年間約80か国の途上国から約500名の研修員を受け入れています。研修は3時ごろまでびっしりでしたが、日本の国際協力・国際交流の現状や地球規模の課題を学び、青年海外協力隊の皆さんの体験に裏打ちされた生きたお話を聞くことができました。



JICA中部ならではの生き生きとした研修でした。食事を通して、ちよっぴり異文化に触れることができ、たのも貴重な体験でした。皆さんも、一度JICA中部の「なごや地球ひろば」を訪れてみてはいかがでしょうか。

JICA中部国際センターの休館日は月曜日、年末年始、国民の祝日です。名古屋駅からは徒歩10分、あおなみ線ささしまライブ駅からは徒歩3分です。

社会人などを対象に 「日本語教室」始まる

5月から、協会の「外国人のための日本語教室」がスタートしました。

わが国の経済発展や国際社会における役割が増えるにつれて、市内に居住する外国人の方が増加していますが、日本社会への適応能力を向上させるため、日本語教育が重要になっています。協会では、昨年度から小中学校の児童生徒を対象に日本語教室を開設しましたが、加えて今年度から主に社会人を対象にした日本語教室を開設し、日本語の基礎を身につけていただくことによって、日本文化などへの理解を深めていただき、多文化共生社会づくりを進めていくことになりました。

教室は、毎週金曜日の夜、7時30分から9時まで市役所西庁舎の東にある市コミュニティセンターで行われています。8月20日現在、生徒は12人で、国籍別では、フィリピン4人、中国4人、



ベトナム3人、ナイジェリア1人となっています。日本語の習熟度によって、初級、4級、3級、2級程度の4つのコースに分かれて学習しています。初級はほとんど日本語が話せない方、4級は日本語が話せるが、会話、

語彙、文法に不自由している方、3級は、更に会話、語彙、文法、漢字、読解力などの向上や日本語能力検定試験3級をめざす方、2級は更に日本語力の向上や同検定試験2級をめざす方と、大まかに区分して指導しています。

名古屋芸術大学の中国人留学生、曹権さんは日本に来たばかり、大学での勉強に必要なので日本語を学んでいるそうです。「将来は日本で就職したい。この教室は先生もやさしいし、環境もいい。できれば、週2回にしてほしい」と意欲満々です。ベトナム人のファン・タン・フンさんは、「日本語が大好き。将来はベトナム料理のお店を開きたい。この教室はいろいろな国の人がいて楽しい」と笑顔で話してくれました。

現在、教室で日本語を教えるボランティアは9人、1人当り1〜3人を交代で教えています。学習意欲のある外国人の方の受講を歓迎します。一度、日本語教室の見学においでください。詳しくは協会へお尋ねください。

「外国人のための日本語教室（夜間）のボランティアを募集しています。経験はなくてもかまいません。先輩が親切に指導しますし、講師養成講座などもご紹介します。ぜひ、ご応募ください。」



日本語教室受講生の募集

○子ども日本語教室

外国人の児童生徒を対象に日常生活に必要な基礎的な日本語を教えます。

申し込み 市内の小中学校に在籍の児童生徒は学校へ、その他の方は協会へどうぞ。

・開設場所

原則として小学生は在籍の学校、中学生はコミュニティセンター

・開設時間

学校は木曜日の午後、コミュニティセンターは土曜日の午前

・費用

資料代として、年間1000円

○日本語教室

原則として市内に在住、または在勤・在学の外国籍の方（主に社会人）が対象で、日本語の習得や資格取得をめざす教室です。

・申し込み

協会へどうぞ。

・開設場所

コミュニティセンター

・開設時間

金曜日の19時30分〜21時

・受講料

1か月につき1000円

国際交流事業補助金対象事業の追加募集

協会では、市内で活動する団体等が行う国際交流事業について、その経費の一部を補助し、市民自らが行う国際交流活動を支援しています。追加して募集しますので、ぜひご応募ください。

・補助金額

対象となる経費の50%以下で、1団体10万円を限度とします。

・申し込み

所定の申請書に必要事項を記載し、10月31日までに協会へお申し込みください。

（平成21年4月1日以降すでに始まっている事業や終了した事業も対象となります。）

11月3日の商工祭に 「国際屋台」登場!

協会では、11月3日に開催される商工祭に市民の皆様と地域在住の外国人の方とのふれあいの場として、「国際屋台」を出店することになりました。商工まつりは、本年4月、師勝町商工会と西春町商工会が合併して発足した北名古屋商工会が、「師勝町商工祭」と「西春町産業まつり」を統合して、新たに開催するもので、会場も市の中心で広いスペースが確保できる市健康ドームと尾張中部福祉の杜の広場となります。

現在市内に在住の外国人の方（外国人登録をされている方）は約1500人で、市民の皆さんと同じように働き、学んでいます。これからの社会の一つの目標である「多文化共生」とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。この「国際屋台」をきっかけに、外国人の方と市民の皆様とのふれあいが進み、地域に新しい文化が生まれ、また、自国の文化に対する理解が深まることを期待しています。

「国際屋台」では、主にブラジルや韓国、中国、ベトナムなどのアジアの国々のさまざまな食べ物や物産を販売するほか、民族衣装なども紹介する予定です。ぜひ、おいでください。

詳しくは、商工祭のチラシをごらんください。

私たちの国際交流④

いけ花で中国と交流

万溪寺（久地野）では、いけ花を通じて中国山東省花卉協会と文化交流をしています。平成7年に日中国交樹立35周年・山東省花卉協会設立25周年に住職の私が招かれて、いけ花のデモンストラーションをしました。これが好評で、以来いけ花を通しての交流が始まりました。昨年は、「八代流春のいけ花展」に來日しました。今年春は「八代流春のいけ花展」に來日しました。数名が万溪寺に滞在されました。このときは、市役所に長瀬市長を表敬訪問されたあと、東庁舎隣の歴史民俗資料館を見学されました。また、花屋さんを見学されたり、ホームセンターでの買い物など、日本の生活の一部を体験



この秋、9月26日開催の「中国大花卉展」いけ花部会にはゲストとして招かれており、出瓶、講義、実技指導の予定です。意外と思われるでしょうが、日本のいけ花文化に深い関心があるようです。（佐治真雄）

していただきました。檀家の方々といっしょに、高遠城跡公園や駒ヶ根光前寺の桜、南木曾の花桃など日本の春を満喫され、役員方々との食事もやカラオケ等でも交流を深めました。もちろん、真の目的であるいけ花の基礎、割留め、折留め等の技術指導も行いました。

ホストファミリー募集 留学生を家庭の一員に 受け入れてください

協会では、ホストファミリーとして外国人を受け入れていただけるご家庭を随時募集することになりました。

北名古屋市にも、韓国、中国などのアジア諸国をはじめ、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、カナダなどの英語圏、ヨーロッパ諸国から留学生がやってくるようになり、ホームステイ先を求めています。期間は、1週間程度から3か月程度、あるいは更に長期とさまざまですが、地元の名古屋芸術大学などから協会に照会があっ

てもなかなか見つからないのが現状です。そこで、協会では、あらかじめホストファミリーを募集し、登録しておく制度を始めました。

外国人留学生を家庭の一員として受け入れていただくこと、外国の文化を知ったり、ふれあいの中で家族関係や日本文化を再発見したり、新たな家族を持つ喜びを得ることが出来ます。家族の一員として留学生を受け入れていただくという形の国際親善にご興味のあるご家庭の登録をお待ちしております。

ご登録いただきますと、ご希望などを考慮して、受け入れプログラムのスケジュールなどを随時ご案内いたします。登録は協会までお申し込みください。



第3回多文化共生社会づくり講座 「ラオスから見た世界」

協会では、「国籍や民族の違いなどにかかわらず、ともに学び、働くことができる、豊かで活力ある北名古屋市」を目指して、多文化共生社会づくり講座を開催しています。

第3回目は、「ラオスから見た世界」と題しての前田初江氏のお話です。ぜひ、ご参加ください。

- ・と き 11月15日(日) 午後1時30分〜3時30分
- ・ところ 文化勤労会館 研修室(2F)
- ・定 員 30名(先着順)

・内 容 青年海外協力隊員から始まる永年のラオスとの関わりから、ラオスの歴史と現状、環境、暮らし、文化など、直接見聞きした事柄をお話いただきます。また、インドネシア、タイ、東アフリカなどの滞在経験なども織り込んで、ラオスから見た世界、世界から見たラオスについても言及していただきます。

・講 師 前田 初江(まえだ はつえ)氏

【略歴】

1946年静岡県生まれ。慶応義塾大学(通教)卒業。1969年から2001年までの間に、青年海外協力隊員、ピエンチャン日本語補習校教師、JVCボランティア、JICAシニアボランティアとして4度、8年にわたりラオス在住、以後現在に至るまでラオスに関わる活動を行う。インドネシア、タイ、東アフリカなどにも滞在経験がある。著書に「遙かなるラオス(1977年時事通信社)」「ラオスといし国(2002年星雲社)」、

訳書に「ラオスの民話(1994年黒潮社)」「母さんのいとし子(2008年ピエンチャン、ドークケート社)」がある。
10月30日(金) までに電話、はがき、ファクス、Eメールで協会へ。

○ラオス人民民主共和国

面積 24万平方キロメートル
人口 580万人(2006年世銀統計)
首都 ビエンチャン
民族 低地ラオ族(60%)など、計49民族
言語 ラオス語
宗教 仏教



外国人向けの「生活ガイドブック」を さしあげます。

協会では、外国から北名古屋市に新たに転入された方のために、日本語・英語・ポルトガル語を併記した「生活ガイドブック」を作成しました。行政への手続き、病院や医院の紹介、緊急時の連絡方法、学校・保育園への入学・入園手続き、電気・ガス・水道・ごみ・電話・郵便などの日常生活の案内が掲載されています。ご希望

望の方は、市民課窓口又は協会までおいでください。
また、(財)愛知県国際交流協会発行の「愛知生活便利帳(スペイン語・2009年版)」をさしあげます。協会までおいでください。ただし、10月1日から先着20名までとします。

「韓国」と「エルサルバドル」の 学習教材をさしあげます。

(財)愛知県国際交流協会が2005年の愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい、つなげていきたいと、参加120か国の教材を作っています。万博の「一市町村一国フレンドシップ事業」で、旧師勝町と交流のあった「韓国」と旧西春町と交流のあった「エルサルバドル」の教材ができましたのでさしあげます。協会までおいでください。ただし、10月1日から先着20名までとさせていただきます。

通訳ボランティアを派遣します。

市内の団体や企業などで、通訳が必要になった場合はご相談ください。有料ですが、安価で通訳ボランティアを派遣します。会員の団体や企業などには補助がありますので、更にお安くなります。ぜひ、ご利用ください。

各種申し込み、お問い合わせ等は、
左記までお願いします。

〒481-8531 北名古屋市西之保清水田15
北名古屋市役所(西庁舎)内
北名古屋市国際交流協会
電話 話 05668-11111 内線2376
ファックス 05668-12511800
メール kokusai@city.kitanagoya.lg.jp